

島根県ペタンク・ブール連盟

—— これまでのあゆみ

ペタンクは、明治43年に南フランスの港町ラ・シオタで生まれたと言われており、現在、世界の55か国以上でペタンク競技が行われ、発祥国フランスでは500万人がプレーを楽しんでいる。ルールは簡単で、目標の球により近く位置するように鉄の球を投げるスポーツのため、年齢にかかわらず競技することができ、多くの人に親しまれている。

日本における始まりは、昭和40年にタレントの伊丹十三氏がフランス滞在中に大人たちが夢中になって鉄球を投げあうペタンクをあちらこちらで目にして、ボールを日本に持ち帰って仲間たちとプレーをしたこととされている。

島根県においては、生涯スポーツであるペタンクを普及させるため、社会福祉協議会が主体となって、平成2年5月に会員132人の参加で島根県ペタンク協会を結成したのが始まりである。本部の名称変更に伴い、平成26年島根県ペタンク協会から、島根県ペタンク・ブール連盟に組織名を変更し現在に至っている。令和元年には、島根県連盟設立30周年を迎え、さらなる発展のため各種事業を実施した。

—— 現在の状況

新型コロナウイルス感染防止のため、令和4年度までは大会の開催を見送っていたが、令和5年度から通常年のおり、冬期を除く期間には毎月大会を開催し、県内外から多くの選手に参加していただいている。

また、毎年開催される日本選手権やねりんピックなどの全国大会に島根県の代表選手を派遣し優秀な成績を収めている。

—— これから

新型コロナウイルス対策のため各事業を中止したことや、会員の高齢化が進んで会員が減少傾向にあることから、会員獲得のため魅力ある事業を開催し、ペタンク競技の普及・発展に努めていきたいと考えている。

また、国民スポーツ大会の公開競技としての採用、実施を最大の目標として、本部、各県連盟と連携し取り組みを進めていく。



第23回西日本ペタンク選手権大会 真幸ヶ丘公園多目的グラウンド(出雲市)